

シューベルト作曲「美しき水車屋の娘」・・・①

No.	題	内容	200113 備考
1	さすらう喜び	さすらいは粉職人の喜び、さすらおうとしないのは、だめな職人だ。流れは昼夜休みなくさすらうことばかり考えている。水車はじっと停まるのが大嫌い、一日疲れず回ってる。石臼でさえ陽気に輪舞を踊り、そしてもっと速く回ろうとする。 おお、さすらいよ、親方、おかみさん、どうか気持ちよく出発を許してください。	変口長調
2	小川はどこへ？	小川のざわめきが聞こえ、さわやかに、明るくきらめいていく。僕も川にそって下って行かなければならぬ。どんどん下っていこう、すると川はますます、さわやかに音をたて明るく輝く。小川よ、どこへ行くのだ、おまえのざわめきは、僕の心をすっかり酔わせる。きっと水の精が深い底で輪舞を踊り歌っているのだ。小川にそって陽気に旅を続けよう、澄んだ小川には、どこでも水車が回っているものだから。	ト長調
3	止まれ！	僕は、水車屋が輝いているのを見る。せせらぎと歌声を貫いて水車の回る音が響き渡る。 素敵な水車の歌声よ、そしてその家の窓がなんときらめいてることか！そして太陽はなんて明るいんだ。小川よ、これを言いたかったのか？	ハ長調
4	小川への感謝	これを言いたかったのだね。水車屋の娘のところへ。あの子がお前を寄越したのか？それともお前がぼくを誘ったのか？ どうでもよいや、探し求めていたものを ぼくは見つけたのだから、それが何であったにしても仕事を貰った。	ト長調
5	一日の終わりに	もしぼくに千本の働く腕があったら、水車を回すことができ、すべての石臼を回せたら、きれいな水車屋の娘は、ぼくの気持ちに気付いてくれるのだろうに！ああ ぼくのこの腕は何て弱いんだ！何をやっても他の徒弟達を追い越せない。大きな集まりの輪に座って静かな涼しい夕べの時間を過ぎしていると、親方はお前達の仕事に満足しているぞ、そしてあの愛らしい娘は、おやすみなさい、って言うのだ。	ハ短調
6	知りたがり屋	ぼくは花には星にも聞かない、ぼくの知りたいことを答えてはくれない。ぼくは庭師でないし、星のいるところは、高すぎるし、小川に聞いてみよう、ぼくが自分を偽ってはいないか。小川よ、どうしてお前は今日は黙っているんだい？ひとつのことを知りたいんだ。おお小川よ、ぼくの愛するものよどうしてお前は驚いているのか！これ以上は聞いたりしないよ、小川よ、あの子はぼくを愛しているのだろうか？	口長調
7	いらだち	すべての幹、すべての小石に彫り、すべての花壇に種を蒔き、「ぼくの心は永遠に君のもの。」と白い紙に書きたい。ぼくは一羽のムクドリを育て、ぼくの声の響きで心の満ち溢れた熱い願いを語らせ、あの子の窓ガラス越しに明るく歌うだろう。朝風に思いを込め、森のざわめきによって呼吸させそよがせたんだ。星の花の光に載せて君に伝えたい。目にも頬にも口からも一息一息が彼女に訴えているはずなのに、何も気付いてくれないんだ。	イ長調
8	朝のあいさつ	おはよう きれいな水車屋の娘さん！なぜ急に顔をそむけるの？ぼくのあいさつが嫌なの？眼差しが気に障るの？それならぼくは去って行かなくちゃならない。ぼくをせめて離れたところには立って眺めさせておくれよ！ブロードのかわいい頭よ、出てきておくれ青い朝の星よ！眠たげにしている瞳よ、露に濡れた小さな花よ、どうして太陽を怖がるの？夜が楽しかったから閉じこもって伏せり泣いているの、その静かな喜びの後で。夢のヴェールを脱いで さわやかに伸び伸びと神様の明るい朝の中へと！ヒバリは空にさえずり、愛が、苦しみと悩みを呼んでいる。	ハ長調
9	水車屋の花	小川は、ぼくの友で、恋人の瞳の色、だからここに割いている花はぼくのだ。彼女の窓のそばに花たちを植えて、彼女を呼んでみたい、すべてが沈黙してるときに、あの子の頭がまどろんで揺れているときに、お前たち、わかっているよな、ぼくの言いたいことを。彼女が目目を閉じて甘い安らぎで眠るとき、ささやいておくれ、忘れないでぼくを！これがぼくの言いたいことなんだ。窓を開け愛のまなざしをそそぐ。朝露は、僕の涙であろう、花にそそぐのだ。	イ長調
10	涙の雨	ぼくたちは、小川を一緒に見つめていた。月がでて星も出てきた。ぼくは水に映る彼女の姿と瞳だけを見ていた。彼女がうなずき、見つめているのを、岸辺に青い花たちも、あの子の真似をして見つめていた。そして小川の中へと沈み込んでいた空全体の輝きは、その水底の深みへと。 そして雲や星たちの上には陽気にささやく小川が流れていた、友よ、私についておいでと！ そのときぼくの目に涙があふれ水の鏡にさざ波を立てて、彼女は言った、「雨だわ、私は家に帰る。」	イ長調
11	私のもの	小川よ 勝手にざわめいていろ水車よ さあ回のをやめろお前たち陽気な森の鳥よ大きいのも小さいのも止めるんだ お前たちのメロディを林を抜けて出たり入ったりしながら響かせてくれ 今日ひとつの歌だけを大好きなあの水車屋のあの子はぼくのものなんだ！ 春よ、これがお前の花のすべてなのか？太陽よ お前はこれ以上明るくは輝かないのか？ ああ こうしてぼくはひとりぼっちでいなくてははいけないのか。	ニ長調

シューベルト作曲「美しき水車屋の娘」・・・②

No.	題	内容	備考
12	休息	リュートを壁に掛け緑のリボンで飾り付けた。ぼくは、胸が一杯で分からない、もう歌えない、どうやって詩を綴ったら良いのか。ぼくの熱い苦しみを歌の苦しみの中に表すことができた。こんなにも甘く細やかだった。この苦悩はなんて大きいのか、この世のどんな音もそれを表すことができない。 リュートよ この壁に掛かり休んで、そよ風がお前の弦の上を吹きぬげるときに、蜂がその羽根でお前に触れるときに、ぼくを身を震わせる。 ぼくは、リボンが時折揺らいで、弦のまわりで音を立てるが、それが愛の苦しみの余韻と感じられる。それとも新しい歌の始まりなのであろうか？	変口長調
13	緑色のリュートのボタンに	緑のリボン色があせてしまうのが惜しい。緑色が大好きなの、君は言ったね。今日それを解いて 君に送ってあげるよ、この緑色を大切にしておくれ！君の恋人は全身真っ白だけど、緑がごほうびなんだ、それにぼくもそれがとても好きなんだなぜってぼくたちの愛は永遠に緑だしはるか彼方の希望も緑色に花咲いているだからぼくたちは緑が好きなんださあ飾っておくれ 君の巻き髪に緑のリボンを巻き付けなさい、君は緑がとっても好きなんだから。そしてぼくにも分かるだろう、どこに希望が住んでいるのかがそしたらぼくにも分かるだろう、そして緑が好きになるんだ。	変口長調
14	狩人	じっとして傲慢な狩人よ、何を探してこの水車場の小川にいる、お前の居場所にここにはないぞ。一頭の子ジカを見たいのなら鉄砲を置いてこい。そして、猟犬どもを家に置き、髭を剃れ、でないとおびえて逃げてしまう。お前が森の中に留まり水車屋と粉挽きをそっとしておいてくれ。魚が緑の枝の中で？リスが青い池の中で？だから林の中にぼくをほっといてくれ。ぼくの大切な人に気に入ってもらいたいのなら知っておけ 友よ 何を彼女は悲しんでいるのかをイノシシ共が夜に森からやってきてあの子のキャベツ畑に踏み荒らし 掘り起こすんだ それらを撃ってくれ。	ハ短調
15	嫉妬と誇り	小川よ、そんなに速くどこに行くのだ、怒りに満ちてあの不遜な狩人を追っているのか。戻ってこい、水車屋の娘の軽はずみな浮気のことを見なかったかい。昨晚、門に立って首を長くして広い通りを眺めていたのを？狩人が機嫌よく家に戻ってくるとき、おしとやかな娘は頭を窓から突き出したりはしないもんだ。小川よ、あの子にそう言ってくれ。しかし、一言たりともぼくの悲しそうな顔のことはあの子に言うな。彼は葦で笛を作って子供たちに 舞曲や歌をそれを吹いてやってる。	ト短調
16	好きな色	緑でぼくは着飾ろう緑の枝垂れ柳でぼくの愛する人を糸杉の林を探しに行こう緑のローズマリーの野原をぼくの愛する人は緑が大好きなのだから行こう。楽しい狩りに行こう 荒れ地や茂みを抜けてぼくの狩る獲物 それは死だこの荒野をぼくは吊付ける 愛の苦しみとぼくの愛する人は狩りが好きなのだから掘ってくれ、ぼくの墓穴を緑の芝で覆ってくれ、黒い十字架はいらない、すべて緑で覆ってくれ！ぼくの愛する人は緑が大好きなのだから。	口短調
17	嫌いな色	森や野原に緑がなかったら広い世界に出たい。あらゆる枝から緑の葉を取って、涙で枯らしてしまいたい。ああ思まわしい緑よ。なぜそんなに堂々と意地悪く見つめるんだ。そんなにこの哀れに蒼ざめた男を。嵐の中でも雨でも雪の中でも、ぼくはあの子の戸口の前に横たわりたいそして静かに歌っていたいんだ昼も夜もたったひとこと「さよなら」と。森の中で狩りの角笛が鳴るとあの子の窓がきしるんだそして彼女がぼくの方を見ようとしなくなつて。ぼくがその中を覗き込めるってわけさ。君の額から緑のリボンをほどいておくれ。さよなら、そしてお別れに君の手を差し伸べておくれ。	口長調
18	しぼめる花	あの子がぼくにくれた花を 墓の中へ入れてくれ。何だってお前たちはみんなぼくをそんなに悲しそうに見るんだ何が起きたのかを知っているだろう？お前たち花は何と萎れ 何と色あせてそんなに濡れているんだ？涙が生み出すことはない五月の緑を死んでしまった愛は再び咲くことはない。春は来る冬は過ぎる、そして彼女がくれた花は墓に入っているのだ。そしてあの子が丘を通り過ぎあの子は誠実だったと、心から思ってくれたら！ そのときこそ花よみんな咲き出でよ！五月がきて冬は去った。	ホ短調
19	水車屋と小川	【水車屋】：誠実な心が愛に消えるとき、ユリの花たちもしおれるだろう。満月も雲の中へ隠れ、涙を見られないように。天使たちも目を閉じ、魂に安らぎを求めてすすり泣くだろう。【小川】：しかし愛が苦しみから逃れたら、新しい星が空にきらめくと、二度と枯れない紅白の三本のバラがイバラの中から咲き出でるのです。そして天使たちは羽根を切り離し、毎朝降りて来るのです。【水車屋】：ああいとしい小川よ、お前は親切だ、だけど愛が終末を知っているのか？ああ 水底の冷たい安らぎよ！小川よ、ただひたすら歌っていておくれ。	ト短調
20	小川の子守歌	憩え、あなたの両目を閉じて！さすらい人よ、あなたは家に帰ったのですよ真実ここにはあります。私のそばで横たわりなさい海が小川を流れ込むまで。この柔らかい枕の水晶のような部屋の中でお入りなさい お入りなさい揺らせるものは何でも揺すって眠りへと誘うのです 私の少年を！ 角笛が響いたなら緑の森からざわめいて しっかりとあなたを包みましよう。 中をのぞかないで青い小さな花たちよお前たちはこの眠る子の夢を重くするのだから。あなたの影がこの子を目覚めさせぬように！ 私の中へ投げ入れなさいあなたのきれいなハンカチをそれで私がこの子の目を しっかりと覆ってあげるからお休みなさい すべての人が目覚めるまでお眠り あなたの喜びから離れ あなたの悲しみから離れて満月が昇り霧が晴れ空の何と広々としていることだ！	ホ長調

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。